

2021年12月期 決算説明資料

片倉工業株式会社

(コード：3001 東証第1部)

2022年2月28日

1. 2021年12月期 決算概要

連結損益計算書

連結損益計算書／セグメント別業績

連結貸借対照表

連結キャッシュフロー計算書

設備投資額・減価償却費・研究開発費

2. 2022年12月期 通期業績予想

連結損益計算書／通期予想

連結損益計算書／セグメント別予想

医薬品事業を取り巻く環境と対応策

医薬品事業 トピックス影響（2022年度見込）

設備投資額・減価償却費・研究開発費予想

3. 株主還元について

株主還元（配当）

1. 2021年12月期 決算概要

(単位：百万円)	2021実績	2020実績	前期増減
	A	B	C=A-B
売上高	37,627	39,639	▲ 2,012
営業利益	2,797	3,595	▲ 798
営業利益率	7.4%	9.1%	▲ 1.7pt
経常利益	3,855	4,544	▲ 689
特別利益	3,914	1,752	2,162
特別損失	▲ 278	▲ 1,827	1,549
税引前利益	7,491	4,469	3,022
親会社株主に帰属する当期純利益	4,953	2,871	2,082

【過去3年間の業績推移】



【売上高・営業利益】

- 売上高・営業利益は減収減益（詳細は次ページ）

【特別利益】

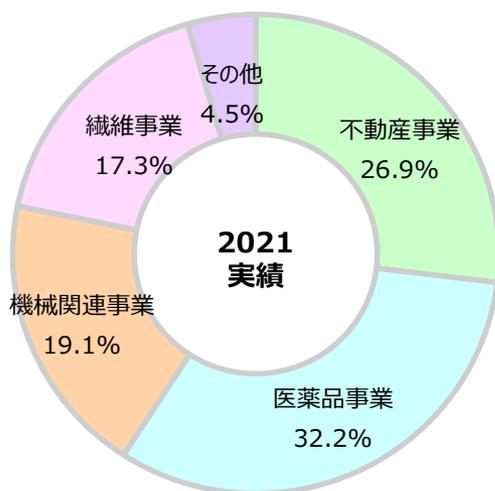
- 固定資産売却益 3,812M

【特別損失】

- 割増退職金 ▲102M（前期▲993M）
- 固定資産処分損 ▲176M

(単位：百万円)	2021実績		2020実績		前期増減	
	A		B		C=A-B	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
不動産事業	10,125	3,590	9,827	3,691①	298	▲ 101
医薬品事業	12,132	105	13,729	579②	▲ 1,597	▲ 474
機械関連事業	7,171	47	8,069	93③	▲ 898	▲ 46
繊維事業	6,496	115	6,353	274④	143	▲ 159
その他	1,702	138	1,659	103⑤	43	35
調整額	-	▲ 1,200	-	▲ 1,146	-	▲ 54
合計	37,627	2,797	39,639	3,595	▲ 2,012	▲ 798

セグメント別売上高構成比


①：不動産で増収ながら減益

- ・ ショッピングセンターのリニューアルの実施等により増収も、前期はショッピングセンターの臨時休業期間中に発生した固定費等の一部を特別損失に計上したことによる特殊要因があり、結果として減益。

②：医薬品で減収・減益

- ・ 薬価改定の影響に加え、長期収載品の販売減、取引先の在庫調整の影響等により減収減益。

③：機械関連で減収・減益

- ・ 消防自動車の受注減により減収。
- ・ 営業損益は、消防自動車事業の原価低減の取り組みが奏功したものの、減収に加え、アスベスト撤去費用を追加で見積り計上したことにより減益。

④：繊維で増収ながら減益

- ・ 耐熱性繊維等の機能性繊維が堅調に推移したことにより増収。
- ・ 営業損益は、アスベスト撤去費用を追加で見積り計上したことにより減益。

⑤：その他で増収・増益

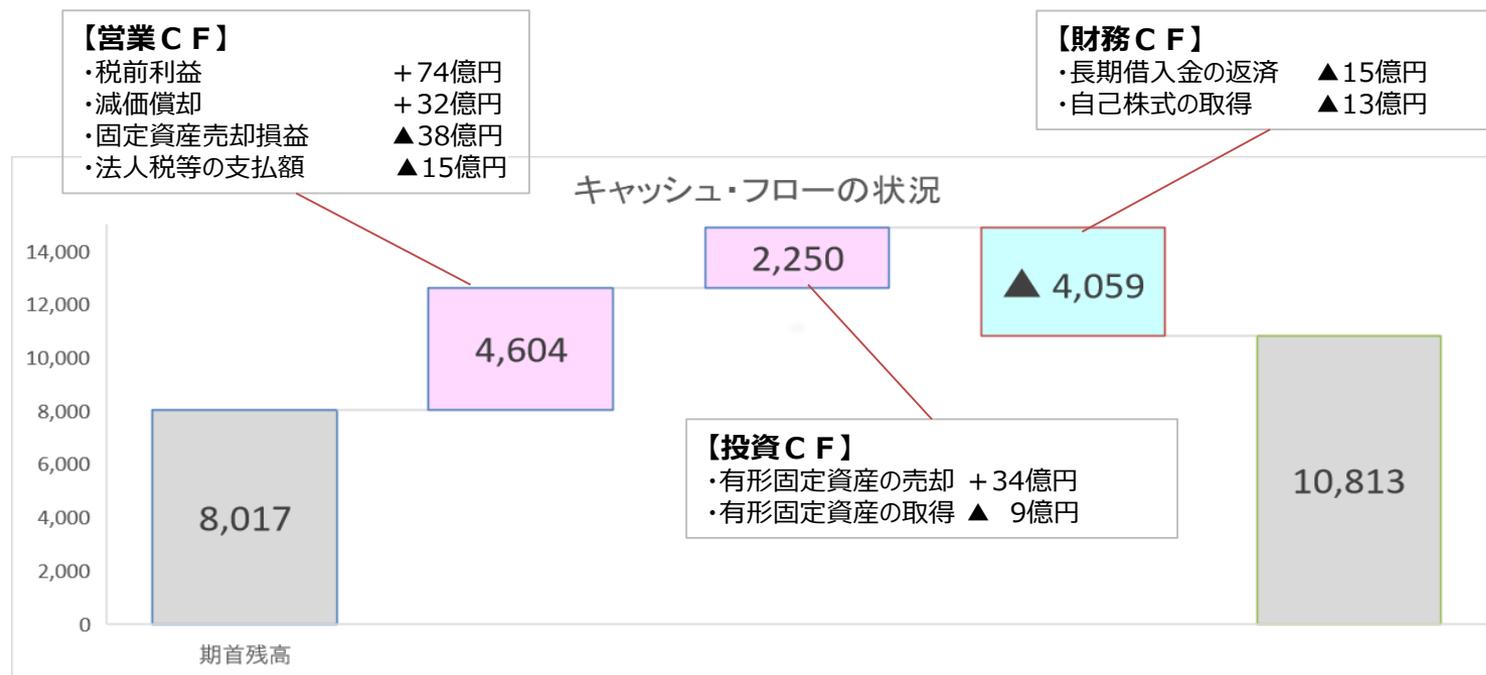
- ・ 訪花昆虫の販売等が好調に推移したことにより増収。
- ・ 営業損益は、増収に加え、ビル管理サービス事業での労務費の減少等により増益。

連結貸借対照表

(単位：百万円)		2021.12	2020.12	前期増減	
		A	B	A-B	
流動資産		57,059	53,822	3,237	
固定資産		82,914	80,561	2,353	
有形固定資産		44,789	46,143	▲ 1,354	• 償却による減
無形固定資産		361	381	▲ 20	
投資その他の資産		37,763	34,036	3,727	
投資有価証券		34,151	31,166	2,985	• 時価評価差額による増
資産合計		139,973	134,384	5,589	
負債合計		52,362	52,541	▲ 179	
借入金		11,017	12,713	▲ 1,696	• 返済による減
預り敷金保証金		9,136	9,084	52	
繰延税金負債		9,899	8,622	1,277	
純資産合計		87,611	81,843	5,768	
利益剰余金		47,095	42,689	4,406	• 当期純利益計上による増
その他有価証券評価差額金		15,593	14,264	1,329	
負債・純資産合計		139,973	134,384	5,589	

連結キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)	2021実績	2020実績
現金及び現金同等物の期首残高	8,017	3,503
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,604	6,530
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,250	2,167
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 4,059	▲ 4,184
現金及び現金同等物の増減額	2,796	4,514
現金及び現金同等物の期末残高	10,813	8,017



(単位：百万円)		2021実績	2020実績	前期増減
		A	B	A-B
	医薬品事業	1,040	767	273
	不動産事業	311	209	102
	その他のセグメント	832	551	281
設備投資額		2,183	1,527	656

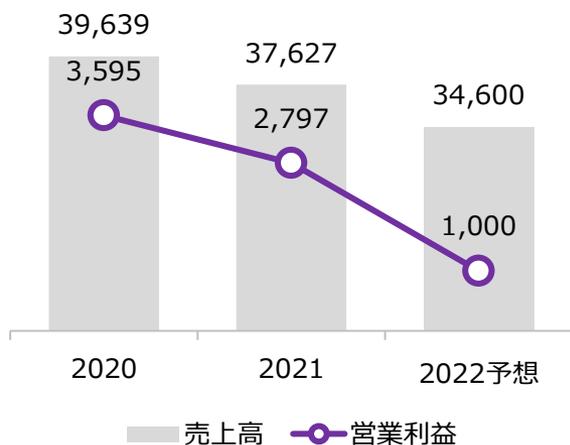
	不動産事業	1,503	1,569	▲ 66
	医薬品事業	810	946	▲ 136
	その他のセグメント	945	440	505
減価償却費		3,258	2,955	303

	医薬品事業	1,956	1,981	▲ 25
	その他のセグメント	92	65	27
研究開発費		2,048	2,046	2

2. 2022年12月期 通期業績予想

(単位：百万円)	2022予想	2021実績	前期増減
	A	B	C=A-B
売上高	34,600	37,627	▲ 3,027
営業利益	1,000	2,797	▲ 1,797
営業利益率	2.9%	7.4%	▲ 4.5pt
経常利益	2,100	3,855	▲ 1,755
特別利益	1,000	3,914	▲ 2,914
特別損失	0	▲ 278	278
税引前利益	3,100	7,491	▲ 4,391
親会社株主に帰属する当期純利益	2,100	4,953	▲ 2,853

【過去3年間の業績推移】



【売上高・営業利益】

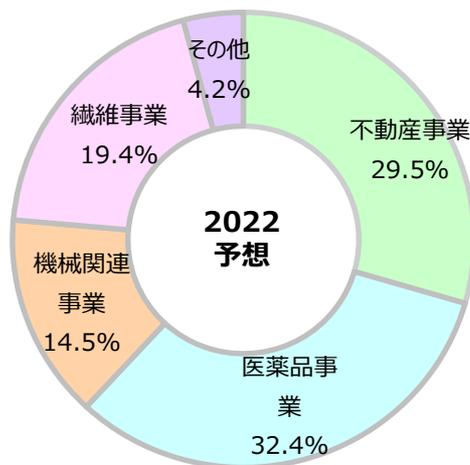
- 減収減益を見込む（詳細は次ページ）

【主な特別損益】

- 固定資産売却益等を見込む

(単位：百万円)	2022予想		2021実績		前期増減	
	A		B		C=A-B	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
不動産事業	10,200	3,600	10,125	3,590	75	10
医薬品事業	11,200	▲ 1,600	12,132	105	▲ 932	▲ 1,705
機械関連事業	5,000	▲ 400	7,171	47	▲ 2,171	▲ 447
繊維事業	6,700	350	6,496	115	204	235
その他	1,500	150	1,702	138	▲ 202	12
調整額	-	▲ 1,100	-	▲ 1,200	-	100
合計	34,600	1,000	37,627	2,797	▲ 3,027	▲ 1,797

セグメント別売上高構成比


①：医薬品で減収・減益

・ P12、13ページに記載。

②：機械関連で減収・減益

 ・ コロナ影響による消防自動車の受注減に加え、
2021年から続く世界的な半導体不足によるシャシ納入遅延により大幅な減収。

● 薬価改定 毎年薬価改定へ

<p>➤ 構造改革</p>	<p>✓ 自社販売体制の構築(2022年4月～)</p> <p>➡ <u>1Qで販売委託品の在庫調整で一過性の赤字となるが2Qから収益改善効果が発現する見込み。</u></p>
<p>➤ 承継強化</p>	<p>✓ 2品目販売開始(2022年4月～)</p> <p>✓ その他複数品目交渉中</p> <p>➡ <u>即時に収益貢献を果たす承継・販売提携をもって、ベースの収益力向上を図る。</u></p>
<p>➤ 新薬開発等</p>	<p>✓ CNT-01(大阪大学とのライセンス契約)</p> <p>✓ ビソノテープ(中国開発)</p> <p>✓ 国内外の法人・アカデミアとの共同開発の推進</p> <p>➡ <u>中長期的な収益力向上を図るため、協業による効率的な新薬開発・後発医薬品開発へ取り組む。</u></p>

□ トピック①

- 構造改革の一環として取り組んでいる自社販売が2022年4月より全製品で開始することに伴い、主要販売先であるアステラス社との間で在庫調整が生じる。
- 当該事象に起因し、2022年1月から同年3月までの期間の同社への売上計上は僅かとなり、その結果、同期間の自社販売移行準備に伴う営業損益影響は約▲9億円となる。

□ トピック②

- 中長期視点での収益力向上施策として新薬開発・後発医薬品開発へ取り組んでいる。
- 2022年度においては新薬パイプラインの開発ステージ進展等を主因とし、前年比約8億円の研究開発費増となる。

トピック①の一過性の赤字に加え、トピック②の研究開発費増が営業損益のマイナス要因となり、2022年度は営業利益▲16億円の着地となる見込み。

設備投資額・減価償却費・研究開発費予想

(単位：百万円)		2022予想	2021実績	前期増減
		A	B	A-B
医薬品事業		1,000	1,040	▲ 40
不動産事業		238	311	▲ 73
その他のセグメント		402	832	▲ 430
設備投資額		1,640	2,183	▲ 543

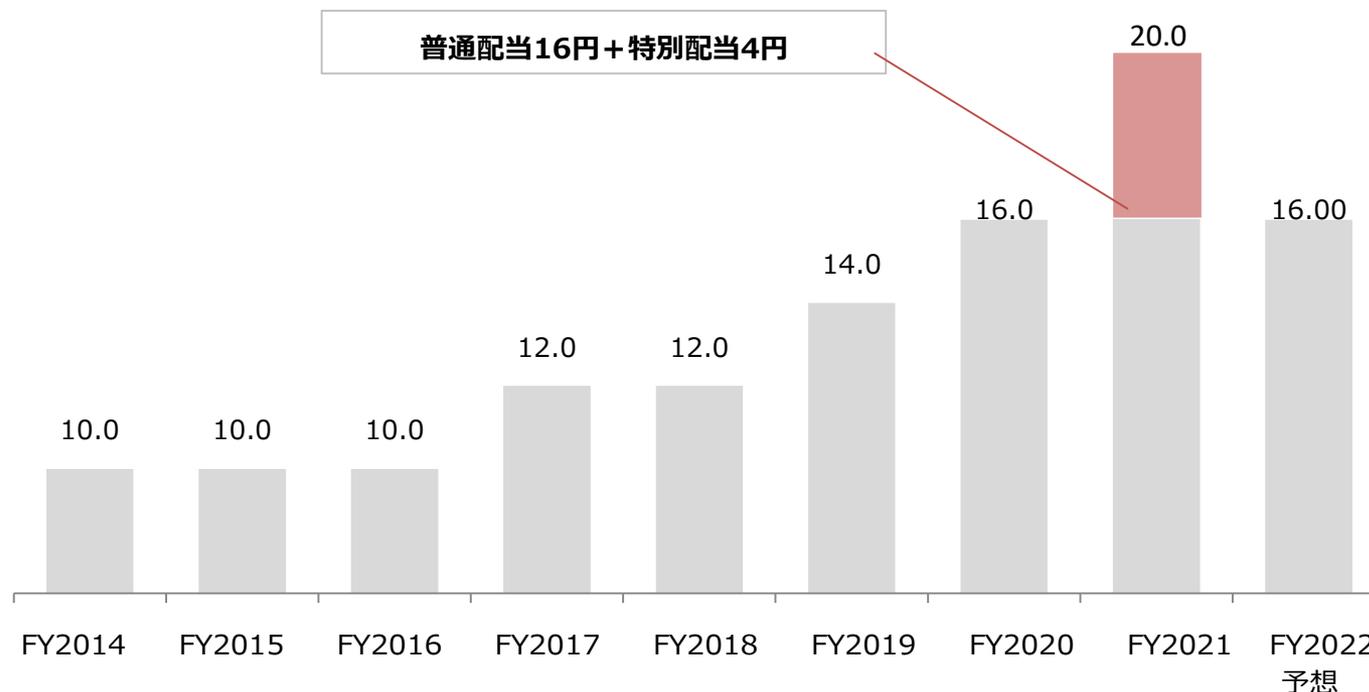
不動産事業		1,433	1,503	▲ 70
医薬品事業		800	810	▲ 10
その他のセグメント		419	945	▲ 526
減価償却費		2,652	3,258	▲ 606

医薬品事業		2,776	1,956	820
その他のセグメント		97	92	5
研究開発費		2,873	2,048	825

3. 株主還元について

<利益配分の方針>

- 当社は、株主の皆様への利益還元を、経営上重要な政策の一つに位置付けております。
- 利益の配分については、安定配当の実施を基本とし、業績や今後の事業展開、内部留保の水準及び配当性向等を総合的に勘案のうえ、配当を行うこととしております。



純利益（百万円）	268	226	1,691	1,224	1,283	1,732	2,871	4,953	2,100
1株当たり当期純利益（円）	7.62	6.44	48.11	34.83	36.56	49.42	82.71	147.56	63.22
配当性向（%）	131.2%	155.2%	20.8%	34.5%	32.8%	28.3%	19.3%	13.6%	25.3%

《参考資料①》カタクラグループの多角化起源

創業 1873年 (明治6年)

設立 1920年 (大正9年)

カイト

垣外製糸場



生糸



富岡製糸場の保有
1939～2005年
(66年間)



生糸製造

生糸製造の伝統を受け継ぐ

繊維事業

衣料品事業室
肌着、靴下の製造・販売

オグランジャパン(株)
カジュアルインナーの製造・販売

(株)ニチビ
水溶性繊維、耐熱性繊維の
製造・販売



蚕糸関連研究

優良蚕品種研究を活かす

医薬品事業

トーアエイヨー(株)
医療用医薬品の製造・販売



繰糸機製造

自社開発の製造ノウハウを活かす

機械関連事業

日本機械工業(株)
消防自動車の製造・販売



製糸工場

跡地を有効利用する

不動産事業

不動産事業部
社有地の開発・活用
ショッピングセンターの運営
不動産賃貸

《参考資料②》カタクラグループの主要な事業構成

繊維事業

介護肌着

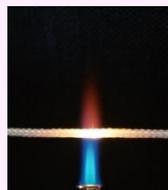


衣料品事業室 / オグランジャパン(株)

ライセンス製品



アルミナ長繊維
(耐熱性繊維)



(株)ニチビ

医薬品事業



トーアエイヨー(株)

機械関連事業

消防自動車



日本機械工業(株)

不動産事業

複合施設 東京スクエアガーデン



商業施設 コクーンシティ



不動産事業部

その他の事業

(※) 会計セグメントの「その他」に該当

交配専用みつばち



国産はちみつ



不動産事業部

植物とペットの専門 マルベリーガーデン



ビルの清掃等



(株)片倉キャロンスービス

<ご案内>

本資料中の業績見通し等についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

その実現・達成を保証または約束するものではありません。また今後、予告なしに変更されることがあります。

本資料に含まれる情報の掲載にあたりましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りに関しまして、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。

<お問い合わせ先>

片倉工業株式会社

住所：〒104-8312 東京都中央区明石町6番4号

企画部 広報・IR室

Tel : 03-6832-0223

Fax : 03-6832-0282

世界遺産登録「富岡製糸場」



特集WEBページ「片倉工業と富岡製糸場が歩んだ歴史」

<https://www.katakura.co.jp/tomioka.htm>